

各地域における農作物の生育状況について

公所名：盛岡農業改良普及センター

作目	生 育 状 況
水稻	- 管内の生育診断予察ほについて、平年と比較して、稈長はやや短く、穂長は並～やや長い、穂数はやや少～並となっている。 - 管内の出穂期は7月31日で、過去5か年平均より3日早い。沢水利用の一部の水田で水が入っていない状態であったが、8月5日以降の降雨により湛水状態（または田面が濡れた状態）を維持できている。現時点では、高温・少雨による生育への影響は確認されていない。 - 管内では8月21日から収穫作業が開始されている（紫波町「ヒメノモチ」）。
大豆	少雨により、葉が立ち、葉の裏面が見える症状が多くのは場で見られたが、8月5日以降の降雨により生育はかなり回復している（用水が確保できた地域（矢巾町の1経営体）では、降雨前に畝間かん水が実施された）。
野菜	【きゅうり】 - 生育はおおむね順調。 - 乾燥時は番水が行われ、かろうじてかん水が行われていた状況。高温・少雨により曲がり果、尻細果が平年より多く見られたが、8月5日以降の降雨により減少。また、側枝の発生・伸びが進み、その後もおおむね順調な生育となっている。 【トマト】 8月上旬にかけての高温により花落ちが多く、全般に小玉傾向で、裂果もやや多かったが、8月下旬以降に開花した果房には目立った障害は見られない。 【ミニトマト】 - トマトと同様の傾向。一部ほ場ではグリーンバック等の生理障害果が見られた。 【ねぎ】 - 少雨により生育は停滞気味であったが、8月5日以降の降雨により生育は回復し、8月中旬から出荷盛期を迎えている。 - 一部のは場では軟腐病等の高温時に発生しやすい病害が見られるが、発生量は前年並で極端に多くはない状況。 【ズッキーニ】 - おおむね生育は良好。 - 直播栽培を行っている一部のは場（50a程度）では、土壌の過乾燥による発芽不良により欠株（約50%）が見られている。
花き	【りんどう】 - 盆需要期向けの主力品種は、おおむね平年並の開花期となった。 - 全体としては、高温による影響は少ないが、一部の品種では高温・少雨により開花が遅れたほか、着色不良が散見された。 - 一部のは場（15a程度）では、かん水ができずに収穫できない株があったほか、定植株の枯死も見られた。

作目	生 育 状 況
	【小ぎく】 ・ 高温・少雨により開花が遅延した。大きな障害は特になく、何とか出荷している状況。
果樹	【りんご】 ・ 果実肥大（横径）は、全般に平年よりも10%程度小さい。 ・ 「つがる」など早生品種を中心に、日焼け果（主に樹の外周部の果実）が発生している。また、果樹カメムシ類による被害果が散見される。 ・ 早生品種の着色は遅延傾向であり、今後、急な果肉の軟化などが懸念される。 【ぶどう】 ・ 果粒肥大は平年並みであるが、一部ほ場（1～2割）では果粒肥大の鈍化が見られている。 ・ 着色始期は平年より早かったが、着色の進みは遅い傾向。 ・ 乾燥状態の後に急な降雨があり、「紅伊豆」等では裂果や縮果症の発生が見られる。
畜産	【牧草】 ・ 2番草の収量は、少雨の影響で平年よりも少ない傾向。 ・ 淹沢、雫石のほ場では、夏枯れが散見される。被害が多いほ場の被害率は、20～50%程度と見込まれる。 【飼料用とうもろこし】 ・ 8月18日現在の生育ステージは乳熟期で、高温・少雨による被害は特に見られない。

各地域における農作物の生育状況について

公所名： 八幡平農業改良普及センター

作目	生 育 状 況
水稻	・ 出穂期は平年より 5 日早く 7 月 30 日に迎え、登熟期間も高温基調で経過しており、成熟期は早まる見込み。 ・ 8 月初旬には葉先枯れや葉先の黄化が一部地域で見られたが、大きな影響はない見込み。 ・ 一部のほ場では、干ばつによる株の枯死も見られた。 ・ 干ばつは、8 月 5 日以降の降雨で回復した。 ・ 8 月 25 日に実施した水稻生育診断予察ほの調査では、穂数は平年並～少ない、穂長は平年並であった。 ・ 同日の登熟診断では、一穂平均粒数は平年より少ない～やや少ない、沈下粒数歩合は平年並み～多かった。
大豆	・ 葉のしおれが見られるほ場もあったが、8 月 5 日以降の降雨で回復した。
野菜	【トマト】 ・ 6 月以降の高温により 6 ～ 8 段目を中心に花落ちが見られた。すすかび病、輪紋病の発生時期が前進傾向。 【ピーマン】 ・ かん水不足のほ場では尻腐れ果が多く見られ、8 月 5 日の降雨以降も継続している。高温・少雨による生育抑制、草勢低下は回復傾向にある。 【ほうれんそう】 ・ 8 月上旬までは高温による生育停滞とそれに伴う S 規格での出荷が見られた。8 月 5 日以降の降雨により、現在は例年並の生育となっている。まだら葉が広く見られたほか、適期にかん水できなかった一部ハウスでは、葉縁の枯れが見られた。現在は回復している。 【キャベツ】 ・ 高温・少雨により 7 月下旬定植のほ場では枯死株が多く、一部ほ場では植え直しが行われた。8 月上旬の降雨後に定植したほ場の生育は良好。 ・ 生育中のほ場では生育停滞、下葉の枯れや黄化、球肥大の停滞が目立ち、小球での収穫が増加。
花き	【りんどう】 ・ 品種間差はあるが高温による開花遅延が見られ、花卉の高温障害の発生は軽度で発生量は極少。 【小ぎく】 ・ 高温による開花遅延（1 週間程度）、少雨により草丈の短茎化が見られた。
果樹	【りんご】 ・ 果実肥大はやや回復傾向（平年比 96～101%、前年比 88%～93%程度）。高温・少雨による影響は出ていない。

作目	生 育 状 況
畜産	【牧草】 ・ 少雨により管内のおおむねね 2 割の草地で夏枯れが見られた。2 番草の収量は平年より 2 ～ 3 割低下する見込み。8 月上旬以降の降雨で持ち直してきており、3 番草の収量はおおむねね平年並になるものと見込まれる。 【飼料用とうもろこし】 ・ 少雨による葉の丸まりが一部のほ場で確認されたが、8 月上旬以降の降雨により解消された。

各地域における農作物の生育状況について

公所名： 中部農業改良普及センター

作目	生 育 状 況
水稻	- 管内の生育診断予察ほについて、穂数はやや少なく、穂長はおおむね平年並となっている。 - 管内の出穂盛期は、8月2日で平年と比べ2日早い。 - 農業用水の取水制限を行っていた地域のうち、ごく一部の地域では、部分的に葉先枯れや葉のしおれが見られたが、8月20日以降の降雨により葉のしおれは回復傾向にあり、傾穂が進んでいる。
大豆	少雨により、葉の裏面が見える症状が多くのは場で見られたが、畝間かん水の実施や8月の降雨により生育は回復傾向にある。
野菜	【きゅうり】 - 施設栽培等かん水設備があるほ場では、高温条件下でもおおむね順調な生育となっている。 - 露地栽培等かん水設備がないほ場では、尻細果や曲がり果等が散見されたが、8月の降雨により草勢は回復傾向にある。 【トマト・ミニトマト】 - 高温による草勢の低下や花落ちのほか、着色不良果、日焼け果、小玉果、裂果などが散見される。 【ピーマン】 - 施設栽培等かん水設備があるほ場では、高温条件下でもおおむね順調な生育となっている。 - 露地栽培等かん水設備がないほ場を中心に、尻腐れ果等の障害果が散見されたが、8月の降雨により減少傾向にある。 【ねぎ】 - 少雨により生育は停滞気味であったが、8月の降雨により回復傾向にある。 【さといも】 - 一部のかん水できない畑地で葉の黄化、生育の停滞が見られたが、8月降雨により回復しつつある。
花き	【りんどう】 - 高温により、盆需要期向け品種の一部で開花遅延が見られたものの、高温障害花（日焼け花）の発生は軽微である。 【小ぎく】 - 高温・少雨により、盆需要期向け品種の一部で開花遅延や茎葉のしおれ・黄化が見られた。 - 彼岸需要期向け品種では、生育期の少雨により草丈が短いほ場が散見される。 【トルコギキョウ】 - 高温により9月咲き品種の開花が前進し、盆需要期の販売数量が増加（前年比140%）。

作目	生 育 状 況
果樹	【りんご】 ・ 「ジョナゴールド」や「ふじ」の肥大はやや緩慢で、出荷が始まっている「紅ロマン」は小玉傾向となっている。 ・ 高温により、早生品種等で日焼け果が見られる。 【ぶどう】 ・ 高温により、一部で日焼け果が見られる。
畜産	【牧草】 ・ 高温・少雨により、2番草の草丈はやや低めだが、例年どおり収穫終了。 【飼料用とうもろこし】 ・ 少雨により草丈は短めだが、8月の降雨により草勢は回復傾向。一部で葉先の枯れあがりが見られる。 【酪農】 ・ 7月末現在の生乳出荷量は前年並となっている。

各地域における農作物の生育状況について

公所名： 奥州農業改良普及センター

作目	生 育 状 況
水稲	- 管内の出穂期は平年より 1～2 日程度早い（ひとめぼれ：平年 8 月 1 日（水沢）、8 月 3 日（江刺） 金色の風：平年 8 月 3 日）。 - 管内の生育診断予察ほについて、穂数と穂長は平年並となっている。 - 金ヶ崎町、奥州市（江刺、水沢）の一部で渇水の被害が発生したが、渇水の被害が軽いところでは、降雨によりおおむね回復。 - 渇水の影響が中程度のところは、葉先枯れ、出穂の遅れや穂の出すくみが見られる（8 月 18 日現在）。渇水の被害が大きいごく一部のほ場では、生育阻害が著しく、草丈 40cm 程度で未出穂となっている。 - 粃・葉鞘の褐変が、広く見られているが、渇水による葉先枯れは一部地域で見られている。
大豆	管内全域で、葉が直立し裏面が見える状況（8 月 18 日現在）となったが、用水が確保できたところでは、畝間かん水の実施や降雨により、おおむね生育は回復した。
野菜	【きゅうり】 - 露地栽培では、生育はおおむね順調。高温の影響により尻細果や曲がり果が一部ほ場で見られる（8 月 18 日現在）。 - ハウス抑制栽培では、生育はおおむね順調。 【トマト】 4 月上旬定植で第 15～16 花房開花、13～14 段目着果（8 月 18 日現在）。7 月からの高温・少雨の影響により、花落ちが散見されるほか、裂果、グリーンバック果、軟果、日焼け果、つやなし果等の障害果の発生が例年より多く見られる。 【ピーマン】 - ハウス栽培では、生育はおおむね順調。尻腐れ果、日焼け果の発生が散見される。一部ほ場で 7 月の高温による花落ち、変形果、つやなし果、赤果（果実肥大緩慢）が発生（8 月 18 日現在）している。 - 露地栽培では、生育はおおむね順調。尻腐れ果、日焼け果、赤果（果実肥大緩慢）の発生が散見される。尻腐れ果については 7 月より減少傾向である。なお、一部ほ場で 7 月の高温によるつやなし果が発生（8 月 18 日現在）している。 【ねぎ】 - 生育はおおむね順調。高温・少雨による病害虫の被害が大きい一部ほ場、また雑草が繁茂する一部ほ場で生育が停滞。
花き	【りんどう】 「いわて夏のあい」：高温のため頂花が咲きづらく下段が老化しやすい。高温障害のため、日焼け花が 7 割程度発生しているほ場あり。

作目	生 育 状 況
	・ 「いわて晩夏のあい」：出荷中。高温・少雨により、他の品種よりしおれや葉の黄化が見られる。 【小ぎく】 ・ 高温による開花遅延が見られる。
果樹	【りんご】 ・ 果実肥大は平年を下回っている（前年比：ジョナゴールド 84.3%、ふじ 85.8% 生育診断ほ 8月1日時点）。 ・ 集荷が始まってる「紅ロマン」も小玉傾向となっている。日焼け果、軟化が若干見られる。
畜産	【牧草】 ・ 1番草の収量が2割程度減、2番草は夏枯れの症状が見られるところがある。 ・ 令和6年の夏枯れの影響を受け、今年、収量が減少した牧草地もある。 【飼料用とうもろこし】 ・ 少雨により、葉が丸まる症状や、草丈が低いまま雄穂抽出期に達したほ場が散見される。

各地域における農作物の生育状況について

公所名：一関農業改良普及センター

作目	生 育 状 況
水稻	・ 一関地域の出穂盛期は7月29日頃（平年差－3日、前年並）と、開花はおおむね順調に進んだ。 ・ 管内の生育診断予察ほについて、穂数はやや少なく、穂長はおおむね平年並となっている。 ・ 8月上旬の降雨により、湛水状態（または田面が濡れた状態）を維持できた。 ・ 飼料用稲の一部ほ場で、用水不足（主食用米ほ場への配水を優先したため）による葉先枯れが見られた。
大豆	・ 高温・少雨による葉の裏返りが一部で見られたが、程度は軽く、8月上旬の降雨でおおむね回復している。 ・ 水分不足により、開花前の地上部の生育量がやや不足（ボリューム不足）する傾向にある。
野菜	【きゅうり】 ・ 高温・乾燥時に十分なかん水量が確保できなかったほ場では、側枝の発生が少なくなるなど生育が停滞したものの、8月上旬の降雨で回復傾向にある。 ・ 出荷量は、露地栽培を中心に前年より多くなっている。 【トマト】 ・ 生育は、おおむね順調。 ・ 8月上旬までの高温により、着果不足（花落ち、着花不良）が見られたが、以降は気温が若干低下し順調に着果している。 ・ 果実について、小玉果や日焼け果、裂果、尻腐れ果の発生が見られるが、発生量は平年並～やや多い程度。 【ピーマン】 ・ 生育は、おおむね順調。 ・ 高温・乾燥時に、着果が多い株を中心に、生育の停滞、果実肥大の鈍化、尻腐れ果の増加が見られた。その後、高温の緩和とともに尻腐れ果の発生は減少している。 ・ 8月上旬の降雨と気温が若干低下したことにより、生育は回復傾向。 ・ 5月の低温により出荷開始が遅れたため、出荷量のピークも後ろにずれると見込まれる。そのため、出荷受付期間を延ばす予定としている。 【なす】 ・ 生育は、おおむね順調。 ・ 7月後半の高温・少雨により、つやなし果、曲がり果、落花の発生が見られたが、8月上旬の降雨以降は例年並の出荷量となっている。 ・ 露地栽培は出荷盛期を迎えているが、降雨後の急激な肥大により果形が乱れ、下位等級品の割合が例年より高い傾向にある。

作目	生 育 状 況
花き	【りんどう】 ・ 生育は、平年より草丈が長くなるなど順調。 ・ 盆需要期向け品種について、高温による開花遅延が生じ出荷が遅れた。 ・ 彼岸需要期向け品種についても開花が遅れ気味。また、一部で着色不良の発生が見られる。 【小ぎく】 ・ 盆需要期向け品種について、高温により開花遅延が生じ出荷が遅れた。 ・ ほ場内で開花が揃わない傾向。
果樹	【りんご】 ・ 少雨により 8 月 21 日時点の果実肥大は鈍化している。8 月上旬の降雨で、若干回復する傾向にある。 ・ 「つがる」では日焼けが多少発生している。 ・ 「紅ロマン」が 8 月 16 日から収穫開始。
畜産	【牧草】 ・ 夏枯れの状況は不明（今後の再生状況を見て判断）。 【飼料用とうもろこし】 ・ 高温・少雨時に葉の丸まりが一部に見られた。

各地域における農作物の生育状況について

公所名：大船渡農業改良普及センター

作目	生 育 状 況
水稲	- 管内全体の出穂盛期は8月1日で、平年に比べ2日早い。 8月19日の巡回調査では、田面にひび割れは見られるものの、稲は傾穂しており渇水で枯死した株は見られない（白未熟粒多発等の高温障害の発生リスクはあるが、現時点で直接的な被害は無し）。 8月25日の生育診断予察ほの調査結果は、前年に比べ「ひとめぼれ」の稈長は並、穂長はやや長く、㎡穂数はやや少ない。
大豆	8月1日頃に開花期に到達。8月19日の巡回調査では、開花は終了しており既に莢の肥大が見られている。 - かんがい水は水稲を優先するため、大豆ほ場での入水は行っていない。一部で水不足の症状（上位葉の裏返り）が見られるが、枯死には至っていない。
野菜	【きゅうり】 - かん水設備がある施設やほ場では、高温・少雨の条件下でもおおむね順調な生育となっており、収量も前年並。 - かん水設備のないほ場では、高温・少雨により、葉のしおれや生長点の焼けが発生し、草勢が低下傾向にある。また、側枝の発生が少なく、収量が例年よりやや少ないほか、尻細果や曲がり果など奇形果の発生が見られる。 【トマト】 - 高温による花落ちや着果不良が多く施設で発生している。 - かん水設備のない施設では、高温・少雨により尻腐れ果の発生が見られる。 【ピーマン】 - 生育はおおむね平年並。地域全体では、尻腐れ果の発生割合は6～7月に比べ減少している。 - 一部水源の無いほ場で草勢低下が見られ、尻腐れ果、日焼け果、赤果が散見されている。
果樹	【りんご】 - 少雨による肥大の鈍化はあるものの、8月21日時点の果実肥大はおおむね平年並。 - 複数の園地で水分ストレスによる葉の黄変が確認されている。また、一部の果実に日焼けが見られる。 【ぶどう】 - おおむね例年どおり。 - 高温によるスズメバチの食害増加に注意している。 【その他】 - うめの黄熟が例年より早かった。

作目	生 育 状 況
畜産	【牧草・飼料作物】 ・牧草２番草収穫後に一部草地で夏枯れが見られる。被害は小規模であり、回復の可否について経過観察中。 ・WCSについては、少雨傾向であったものの被害は無し。８月18日から収穫調製が行われている。

各地域における農作物の生育状況について

公所名： 宮古農業改良普及センター

作目	生 育 状 況
水稲	- 管内の生育診断予察ほについて、穂数と穂長は平年並となっている。 - 管内全体では、大きな被害は見られてないが、出穂時期となった8月上旬に水が豊富にある状況ではなく、飽水管理による高温対策を呼びかけたものの品質等への影響が懸念される。 7月下旬の高温・少雨の影響により一部の地区で葉先の一部黄化が見られた。 8月に入り、降雨があったものの平年に比べてまだ少ない上、地域によるばらつきが見られる。 (8月1日～8月20日の降水量の平年比 宮古58%、山田25%、岩泉44%、小本30%) - 管内のある土地改良区において、7月下旬に取水制限していたものの、8月5日時点で通常取水が可能となった。8月21日時点では用水を必要とするピーク時期を過ぎたため、今後配水の検討はしないとのこと。
大豆	- 山田町において、7月下旬の高温・少雨により葉の裏返りが広く確認されたが、8月上旬以降の降雨で回復傾向にある。 8月上旬にカメムシ類が多発していたことから追加防除を実施。
野菜	【きゅうり】 - 露地・ハウスともに草勢低下による果形の乱れが見られる。露地においては、7月下旬の高温・少雨の影響を強く受けていたが、8月に降雨があったことから回復傾向にある。ハウス抑制作型では、高温・少雨による一部欠株も見られたが、おおむね生育順調。 【ピーマン】 - 露地・ハウスともに高温・少雨による赤果・奇形果の発生が多い。露地では、一部ほ場で7月下旬に高温・少雨の影響による草勢低下が見られたが、8月の降雨により生育は回復傾向にある。 【ブロッコリー】 6月までの高温により生育が前進化し、7月の高温になる前に収穫終了。 【畑わさび】 - 高温・少雨により、株の萎凋症状が多発。回復しないものも見られる。また、日当たりの良い部分を中心に、葉枯れ、茎枯れが発生している。7月末までのJA出荷量（花芽を含む）はほぼ平年並。
花き	【りんどう】 - 早生品種については、おおむね需要期の開花となったものの、晩生品種では、一部ほ場で少雨によるしおれが見られている。 8月上旬までの出荷本数は、前年対比84%となっている。

作目	生 育 状 況
	【小ぎく】 - 一部ほ場で高温・少雨により開花が遅れる状態であったが、8月7・8日の降雨により開花が進み、盆需要期に出荷された。 8月上旬までの出荷本数は、前年対比82%となっている。
果樹	【りんご】 - 少雨により果実肥大がやや遅れていたものの、8月上旬の降雨により果実肥大はほぼ平年並となった。 - 苗木の衰弱、枯死、生理障害による黄変落葉が散見される（枯死は2件）。 - 管内全体で、品種を問わず樹冠の外側等で日焼け果が見られ、摘果により対応中。現状では収量への影響はないと見られる。 7月下旬からハダニ類の急増が見られたが、防除により現在発生は落ち着いている。
畜産	【牧草】 - ほ場全体の枯死はまぬがれたと見られるが、2番草については収量減となる見込み。さらに、2番草収穫後の密度低下（一部枯死）、再生遅延（高温少雨による生育遅延）が見られる。 【飼料用とうもろこし】 7月末に一部地域での葉のしおれ・枯れを確認。症状の激しい所では雄穂も枯れており、子実肥大できなかった株も見られる（7月末）。8月の降雨により生育が回復している部分も見られるが、生育量は少ない見通し。 【酪農】 - 乳量については、対策をとりながら搾乳しており、大きな低下は見られない。 - 高温により人工授精の受胎率が低下していると見られる。 【肉用牛】 7月末時点では、複数の放牧地で飲用水が枯渇し組合員が運搬し対応していたが、8月上旬の降雨により解消。

各地域における農作物の生育状況について

公所名：久慈農業改良普及センター

作目	生 育 状 況
水稲	- 管内の生育診断予察ほについて、穂数は並～やや少なく、穂長はおおむね平年並となっている。 - 降水量が少なく、水が不足した地域もあるが、収量・品質への影響は現時点で不明。一部のほ場で葉先枯れが見られる。
野菜	【きゅうり】 - かん水の実施により、順調に生育。高温・少雨による大きな影響はなし。 【ピーマン】 - 自動かん水装置があるほ場では、順調に生育。自動かん水装置がないほ場でも、かん水の実施により、高温・少雨による大きな影響はなく生育。 【ほうれんそう】 - 井戸水の枯渇等により、播種作業の見合わせや、水道水の使用に切り替えて播種作業のペースを落としている生産者がいる。 - 高温等の影響により、発芽や生育の不揃い、生育抑制が生じていたが、現在は回復しつつある。また、ほ場により生理障害（まだら葉や葉先枯れ症状）が見られる。 【ブロッコリー】 7月下旬定植の一部ほ場において、長期にわたる少雨により、定植後のかん水等の対策を行ったものの枯死による欠株が見られる。 8月上旬の降雨により、その他のほ場は生育が順調に進んでいる。
花き	【りんどう】 - 少雨の影響もあり、昨年に比較し草丈が短い傾向にある。 【小ぎく】 - 高温・少雨による影響は特になし。 【トルコギキョウ】 - 一部ほ場で、高温の影響により生育・開花が早まっている。
果樹	【りんご】 8月21日の生育調査において、「ジョナゴールド」、「ふじ」の肥大はそれぞれ平年比98%、104%。8月上旬の降雨により緩慢だった果実肥大は回復傾向だが、果実肥大の揃いは悪い。 8月上旬にハダニ類の発生が増加したが、定期防除により密度が抑えられている。 - 品種により、えそ斑点がみられる(シナノゴールド)。乾湿差の影響と見られる。

作目	生 育 状 況
	【やまぶどう】 ・ 高温・少雨による影響は特になし。
畜産	【牧草】 ・ 一部の経年草地で再生不良や枯れあがりが見られる。現時点での減収程度は不明。 【飼料用とうもろこし】 ・ 登熟は順調（出穂は平年より2週間程度早い）、少雨による葉の丸まりや不稔はほぼ見られない。 【酪農】 ・ 1戸で渇水のため搾乳回数減（搾乳回数3回→2回。期間は7月30日～8月25日の27日間）、約13%出荷乳量減少。 【肉用牛】 ・ 明らかな影響は現時点では見られない。 ※ 畜種共通で高温による繁殖成績低下が懸念されるが、現時点では不明。

各地域における農作物の生育状況について

公所名： 二戸農業改良普及センター

作目	生 育 状 況
水稲	・ 高温により出穂期が平年より 5～7 日早かった（水稲出穂期の定期報告：二戸管内の令和 7 年の出穂盛期 7 月 28 日）。 ・ 管内の生育診断予察ほについて、穂数は平年並～やや少なく、穂長は平年並～やや長くなっている。 ・ 登熟期間も高温で経過していることから、9 月 5 日頃から主食用米の刈取りが始まるものと推定される。 ・ 高温・少雨により、一部ほ場で 6 月末頃からの中干し後に入水ができず、出穂したものの稲株が枯れているほ場もごく一部に見られた。8 月 5 日以降の降雨でも十分な量の水はなく、田面のひび割れ状態が続いていたが、8 月 20 日～21 日のまとまった降雨により入水できている。
大豆	・ 播種時期の乾燥により、一部ほ場で発芽の揃いが悪かった。 ・ 7 月の少雨により、7 月下旬～8 月上旬は葉の裏面が見えるようなほ場が見られたが、開花には大きな影響がなかったと見られ、他のほ場と同じ時期に開花した。また、8 月 5 日以降の降雨により、症状は改善し、生育は回復してきた。 ・ 少雨の影響の大きかった一部ほ場で枯死している（確認できたのは 1 筆、ほ場内の 5 % 程度）。 ・ 二戸管内は畑地での栽培がほとんどであり、かん水の指導を行ったが、実施したほ場は確認できなかった。
野菜	【きゅうり】 ・ 露地：定植期（5 月下旬～6 月中旬）の低温・寡照による生育停滞が見られたが、6 月中旬からの天候回復により生育は前進化（例年より 1 週間程度早い）し、平年並の出荷量となった。その後の高温・少雨により、かん水設備の無いほ場では、しおれや空洞果等の障害果の発生が散見されたものの、全体としてはおおむね順調な生育となっている。 ・ ハウス：高温による成り疲れ（流れ果の発生や草勢の低下等）が散見されるものの、おおむね順調な生育となっている。 【トマト】 ・ 5 月下旬までの低温・寡照による生育停滞（平年より 1 週間程度）の影響が現在も続いているほか、高温により花落ちが発生している。 ・ 高温・少雨のため平年より小玉傾向であり、8 月上旬の降雨により裂果が多く発生し、出荷量は前年の 6 割程度と少ない状況が続いている。 【ピーマン】 ・ 露地：定植期（5 月下旬～6 月上旬）の低温・寡照（特に地温の低下）により、活着遅延及び生育停滞が発生した。6 月中旬以降、天候は回復したものの、活着不十分の状態で急激に生育が進んだ。その後の高温・少雨により、尻腐れ果や花落ちが発生し、出荷量が平年より少ない（平年の 6～7 割）。8 月 5 日以降の降雨により、尻腐れ果の発生は減少傾向である。 ・ ハウス：高温・少雨により、尻腐れ果や花落ちが発生し、出荷量は平年より少ない（平年の 6～7 割）。現在は、尻腐れ果の

作目	生 育 状 況
	発生は減少傾向である。 【レタス】 ・ 6月下旬までは、高温下での生育の前進化による採り遅れが見られ、葉先枯れの発生と価格低迷から一部では場廃棄を実施した。 ・ 7月に入ってから、高温による早期成苗化や老化苗の定植（ほ場が乾燥し、畝形成ができないことによる定植遅延）、定植後の高温・少雨による外葉の葉先枯れや小玉化、抽だい等の発生により、出荷量は平年より少ない。8月の降雨により、定植ほ場では活着が促進され、生育は回復傾向である。
花き	【りんどう】 ・ 盆需要期向け品種では、7月後半の高温により、全域で開花遅延、着色不良が発生した。開花遅延は全品種で発生が見られ、一部品種では出荷量が減少する見込みである。着色不良は品種、地域により程度が異なるが、出荷に影響のない軽微なものが多かった。 ・ 高温・少雨による一部、株全体のしおれも発生しているが、通路かん水が可能なほ場が多いため、水利の悪いほ場、株齢が進んだほ場、生育不良株に限られている。 ・ 開花遅延、病虫害の影響により、出荷量は前年より減少した。 【小ぎく】 ・ 高温・少雨による株全体のしおれが発生した。畑地への定植が多く、かん水が難しいことから枯死が多発しているほ場がある。3割程度が立枯れ状態のほ場もある。彼岸需要期向け品種の影響が大きい見込みである。周辺が水田のほ場では開花遅延はあるが、枯死は見られない。 ・ 高温による開花遅延が発生し、出荷ピークが8月第2半旬にずれ込んだため、出荷量は大幅に減少した。
果樹	【りんご】 ・ 果実肥大は緩慢な傾向である。 ・ 日焼け果が散見されており、程度のひどいものは裂果も見られる。 ・ 8月15日から「紅ロマン」の収穫期になっているが、早期みつ症が見られるほか、高温によりデンプンの抜けが悪いことから、目揃い会において、すぐりもぎの間隔を開けすぎず、速やかに収穫・出荷することを指導した。 ・ 今後、収穫前落果が助長される懸念がある。 【おうとう】 ・ 高温による影響もあり、7月上中旬に収穫期となった「紅秀峰」の果実は小さめであった。 ・ 花芽形成期（7～9月）に少雨傾向となっているため、来年の花芽への影響が懸念される。

作目	生 育 状 況
	【ブルーベリー】 ・ 少雨により小玉傾向であった。大粒品種である「チャンドラー」でもL～2Lの大きが多く、加工用となるものも多かった（参考：カシオペアブルーは5L以上）。
畜産	【牧草】 ・ 2番草の生育中（7月上旬）から、ほぼ全ての草地（草地更新から経過年数の短いほ場や転作田を除く）で、草種に関わらず夏枯れやさび病の症状が確認された。 ・ 収量の減少やロール開封後の品質の低下が懸念される。 ・ 8月上旬、下旬のまとまった降雨により、3番草には夏枯れの症状は見られず、生育も持ち直している。 【飼料用とうもろこし】 ・ 7月中旬には傾斜のあるほ場の上部を中心に少雨による葉の丸まりが確認され、一部ほ場では下葉が枯れる症状も見られた。 ・ 出穂期は、高温により平年より7～10日程度早い。 ・ 8月上旬、下旬のまとまった降雨により、葉の丸まりは解消し、子実の充実は例年並となっている。